

はじめに

本調査は、当金庫のお取引先のご協力により昭和50年7月から実施しているものです。四半期毎に調査を行い、D. Iを中心として分析を行っています。

なお、当金庫では6種類の一般業種のほか、地域金融機関として地場産業に重点を置いた調査を行い、次の8業種を選定しております。

- ① 縫製業
- ② 電子部品・半導体製造業
- ③ 漆器業
- ④ 木材業
- ⑤ 建具業
- ⑥ 織布業
- ⑦ 繊維・雑品業
- ⑧ 観光業

今回の調査は、平成28年7月～9月期の業況実績と、平成28年10月～12月期の見通しについて、管内771先の事業所を対象に実施いたしました。

些かなりとも経営のお役に立てれば幸いです。

※ D. I (Diffusion Index) 拡張指数

不変部分を除いて増加（上昇）したとする企業と、減少（下降）したとする企業の全体に占める構成比のどちらの力が強いかを比べて、時系列的に景気のベクトルの傾向を見る方法です。

**** 目次 ****

1. 概況	1
2. 一般業種の業況	
(1) 製造業	2
(2) 卸売業	3
(3) 小売業	4
(4) サービス業	5
(5) 建設業	6
(6) 不動産業	7
3. 地場産業の業況	
(1) 能登地区の縫製業	8
(2) 能登地区の電子部品 ・半導体製造業	9
(3) 能登地区の漆器業	10
(4) 能登地区の木材業	11
(5) 能登地区の建具業	12
(6) 能登地区の織布業	13
(7) 能登地区の繊維・雑品業	14
(8) 能登地区の観光業	15
4. 経済指標	16～17
5. 特別調査 金融サービスにおける IT利活用と中小企業	18

(注) 平成28年7～9月を今期、平成28年4～6月を前期、平成28年10～12月を来期という、以下同じ。

調査対象企業の業種別先数および有効回答数

	依頼先	有効回答数	回答率 (%)	構成比 (%)
製 造 業	230	197	85.7	29.2
卸 売 業	36	30	83.3	4.5
小 売 業	230	204	88.7	30.2
サービス業	130	117	90.0	17.3
建 設 業	111	102	91.9	15.1
不 動 産 業	34	25	73.5	3.7
合 計	771	675	87.5	100.0

◆◆◆ 概 況 ◆◆◆

《 2016・7～9 月 》

石川県内の景気は一部に鈍さが見られるものの回復傾向を続けており、その要因として個人消費においては、乗用車販売・新設住宅着工戸数が依然底堅く推移し、主要温泉地の宿泊数は依然として高水準となっている。公共投資は持ち直しに転じており、設備投資についても慎重ではあるが着実に増加している。製造業では前期から改善傾向にあり今期も横這いで推移してきている。雇用所得環境は着実に改善しているが、景気の先行きについては、慎重な見方が多い。

当金庫の今期（平成 28 年 7 月～9 月）営業地区業況 D. I は、全体的には一部業種を除き改善を示しており、前期△17.9 に対して△12.1 と前期比 5.8 ポイント改善を示している。

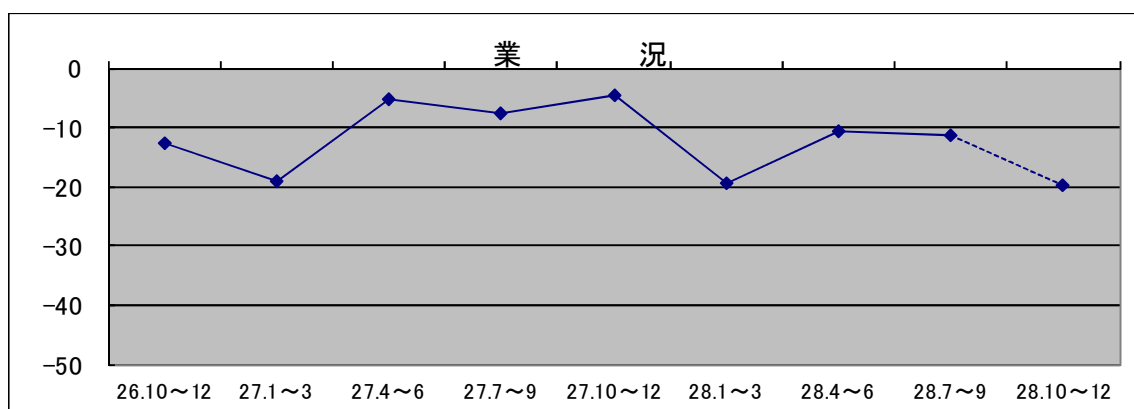
内容をみると、D. I が改善したと回答した業種のなかでも、住宅建設の底堅い需要から能登地区の木材業で売上及び収益が増加となった。観光業においても観光シーズンや夏休み等入込客の増加で改善を示した先が多くみられ、それに伴い小売業・サービス業でも明るさがみられた。

D. I が悪化したと回答したのは地場産業である漆器業や建具業、縫製業、電子部品・半導体製造業が中心で、売上減少や収益低下により悪化を示す企業が多かった。ただ、総体的には改善を示す業種が多かったと思われる。

来期（平成 28 年 10 月～12 月）業況 D. I は今期の△12.1 から△21.2 と 9.1 ポイント低下を予想する。製造業では織布業が安定した受注を見込み、漆器業においては年末の書入れ時に向かうことから改善を予想し、繊維・雑品業においても春物、夏物の受注増の期待から増加を予想している。電子部品・半導体製造業や建具業では悪化を見通している。観光業では観光シーズンオフによる入込客の減少から悪化を予想。卸売業は燃料販売で好調を予想するも、全体ではやや悪化すると見込んでいる。小売業では業種ごとによって、好不調の隔たりがあり、全体では悪化を示した企業が多かった。サービス業では全体としては悪化を予想。建設業では住宅建設の減少から悪化するとし、不動産業でも引き続き厳しいと予想する企業が多く、改善を見込む企業が少なかった。

県では 10 月に世界農業遺産の認定効果を高めるため、同遺産の認定地域がある岐阜県と連携し七尾市でシンポジウムが開催されることになった。国連食糧農業機関（FAO）や国内の認定全 8 地域の関係者らが集まり、各地の特色ある活性化策を PR する。石川では 2011 年に「能登の里山里海」が認定され、能登町の農家民宿群「春蘭の里」では、来訪者数が 2011 年度の 5,562 人から 2015 年度に 11,914 人の約 2 倍に伸びた。企業の農家参入が耕作放棄地の活用にもつながっており、世界農業遺産の認定をキッカケに地域振興の動きが広がってきている。

製造業



【概 況】

今期（H28. 7～9月）業況D. Iは製造業全体では△11. 2（前期△10. 8）を示し0. 4ポイント悪化となったが、木材業・織布業において改善を示した。人手不足が原因で売上が減少した縫製業や、円高による影響や中国経済の減速などから依然先行き不透明感が拭えない電子部品・半導体製造業などは、来期も引き続き厳しい予想を挙げている。

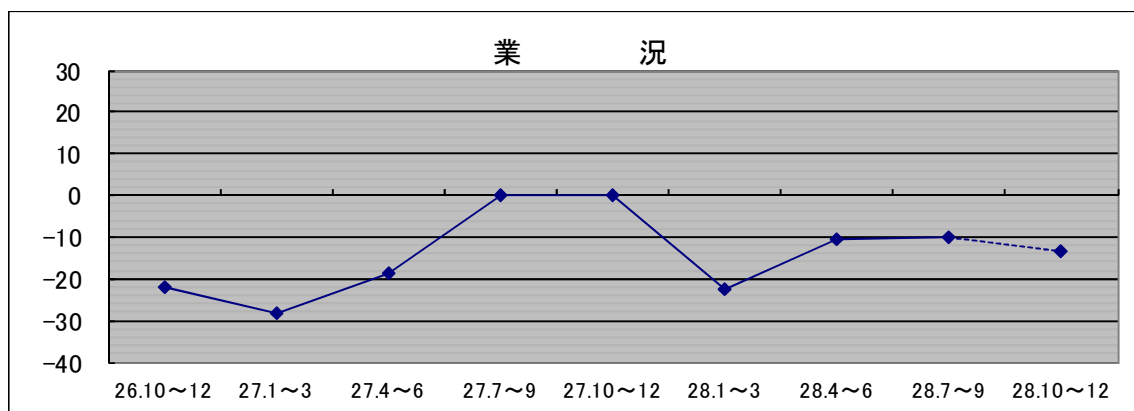
結果、来期（H28. 10～12月）の業況D. Iは△19. 8（今期△11. 2）と8. 6ポイントの悪化を予想している。

《業績判断D. Iの推移》

	平成26年	平成27年				平成28年				見通し
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	
業 況	△12.8	△19.0	△5.3	△7.7	△4.4	△19.4	△10.8	△11.2	△19.8	
売 上	△3.8	△21.0	△3.3	5.3	11.3	△22.3	△2.5	△7.1	△13.7	
収 益	△12.3	△23.3	△3.8	△2.9	4.4	△18.4	△5.9	△10.7	△12.7	
資金繰り	△15.2	△12.4	△22.0	△17.9	△7.8	△18.9	△10.8	△7.6	△12.7	
人 手	△17.5	△8.6	△12.0	△14.5	△15.2	△11.2	△11.3	△7.6	△9.1	
設 備	△14.7	△10.5	△10.5	△11.1	△8.3	△7.8	△7.8	△9.1	△8.6	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	17.6 %	提携先を見つける	27.0 %
輸入製品との競争の激化	14.3 %	販路を広げる	18.1 %
同業者間の競争の激化	7.4 %	経費を節減する	18.1 %

卸売業



【概 況】

昨年には及ばないものの、鶏卵業については価格低下傾向にはあるが好調を維持している。季節的な要因もあったが建設・印刷資材卸等は横這いであった。また食品関係の卸業で悪化とした企業はあったが、卸売業全体の今期（H28.7～9月）業況D. Iは△10.0（前期△10.3）とほぼ横這いを示した。

来期（H28.10～12月）の見通しは、燃料販売業で好調を予想するも、その他ではやや悪化を予想する先が多く、卸売業全体の業況D. Iは△13.3と悪化を予想している。

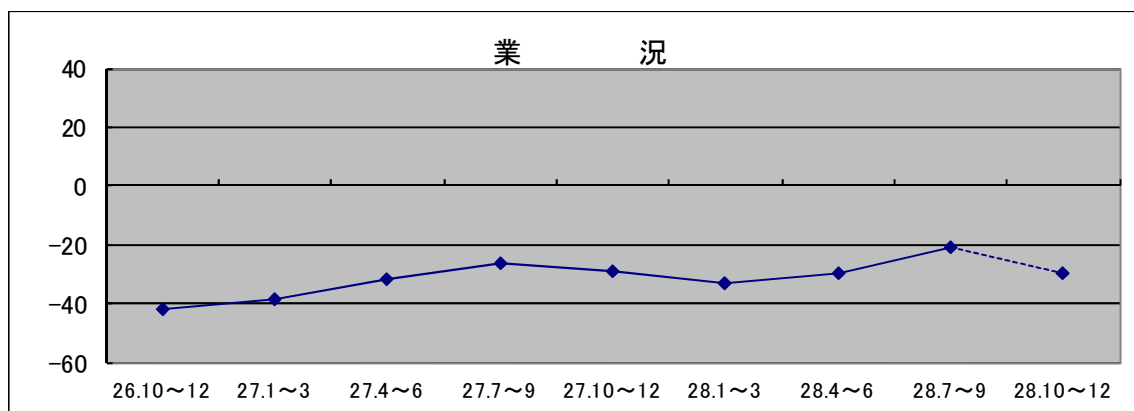
当面の重点施策で、「提携先を見つける」「販路を広げる」とした先が、全体の過半数を占めた。

《業績判断D. Iの推移》

	平成26年	平成27年				平成28年			見通し
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
業 況	△21.9	△28.1	△18.8	0.0	0.0	△22.6	△10.3	△10.0	△13.3
売 上	△9.4	△46.9	△12.5	△3.2	6.2	△25.8	△3.4	△23.3	3.3
収 益	△12.5	△43.8	△12.5	△9.7	9.4	△32.3	△6.9	△23.3	△6.7
資金繰り	△9.4	△18.8	△25.0	△6.5	△6.2	△6.5	△10.3	△10.0	△6.7
仕入価格	9.4	15.6	21.9	16.1	34.4	9.7	17.2	10.0	10.0
在 庫	△3.1	△6.2	△15.6	0.0	9.4	3.2	3.4	3.3	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	16.5 %	提携先を見つける	31.5 %
同業者間の競争の激化	16.5 %	販路を広げる	23.3 %
合理化の不足	14.1 %	経費を節減する	17.8 %

小売業



【概 況】

小売業では、酒類販売業、飲食業等改善がみられ、アウトドア用品販売については好調を維持している。反面、タイヤ販売・燃料品販売業や家具販売などは悪化したとの先が多かったが、結果として小売業全体では今期（H28. 7～9月）業況D. Iが△20. 6（前期△30. 0）と9. 4ポイント改善を示した。

来期（H28. 10～12月）は、アウトドア用品販売業が引き続き好調維持を見込み、タイヤ販売業で改善を予想している。一方、食料品販売や呉服販売業で悪化を予想し、ガソリンスタンドにおいては引き続き悪化を予想した企業が多く、同業先でも回答に隔たりがある。

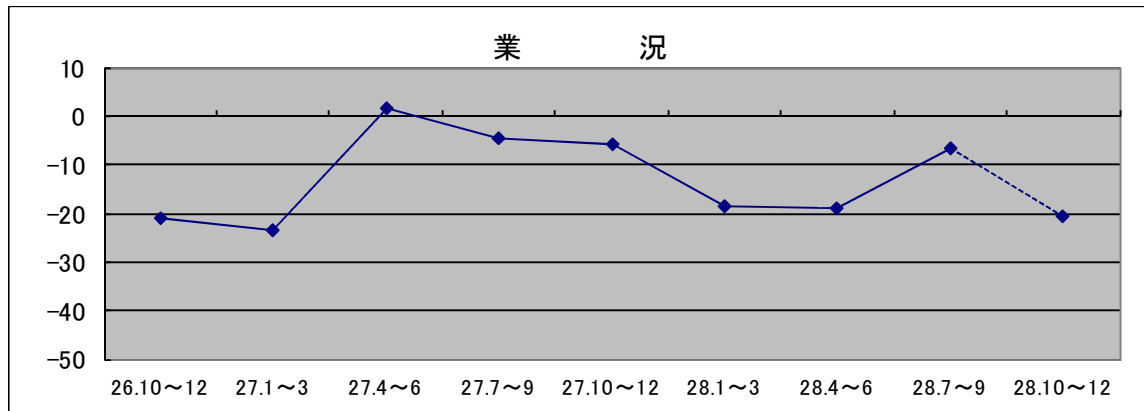
従って、来期業況D. Iについては見通しを△29. 9と今期より9. 3ポイント悪化の予想となった。

《業績判断D. Iの推移》

	平成26年	平成27年				平成28年				見通し
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	
業 況	△41.7	△38.3	△31.9	△26.4	△29.3	△33.3	△30.0	△20.6	△29.9	
売 上	△35.7	△42.6	△20.1	△10.4	△17.6	△22.7	△21.0	△10.3	△22.1	
収 益	△37.2	△42.8	△24.5	△15.4	△17.1	△24.2	△24.3	△13.2	△22.1	
資金繰り	△30.7	△27.8	△21.1	△20.9	△20.0	△24.6	△20.5	△16.2	△18.6	
販売価格	△8.0	△5.7	12.3	△7.0	△6.8	△5.8	1.0	△1.5	△2.5	
在 庫	△2.5	1.0	△0.5	△1.0	2.4	1.9	4.3	3.9	1.5	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	19.4 %	仕入先を開拓・選別する	29.0 %
商圈人口の減少	13.1 %	経費を節減する	20.2 %
利幅の縮小	10.9 %	品揃えを改善する	11.6 %

サービス業



【概 況】

夏場であったことから船舶保管業で改善を示し、加えて観光シーズンでもあったことから宿泊業や観光業でも好調であった。反面、理・美容業やクリーニング業等は低調であった。

結果、サービス業全体の今期（H28. 7～9月）業況D. Iは△6. 8（前期△18. 8）と前期に比し12. 0ポイント改善を示した。

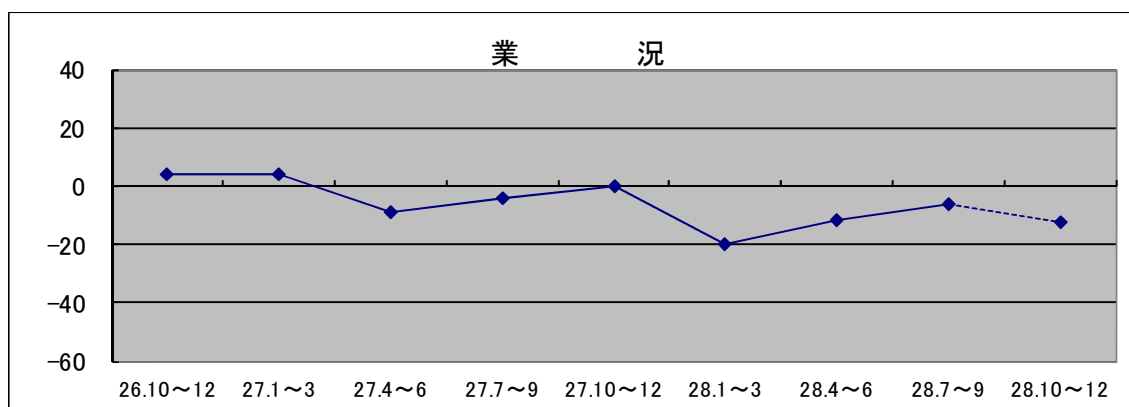
来期は冬季に入ることから入り込み客の減少が予想され、温泉旅館等宿泊業で悪化を予想している。又、自動車修理販売においても悪化するとみており、理・美容業については引き続き悪化を予想している。結果、来期（H28. 10～12月）の見通しは、△20. 5と今期より13. 7ポイントの悪化を予想している。

《業績判断D. Iの推移》

	平成26年	平成27年				平成28年			見通し
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
業 況	△20.9	△23.3	1.7	△4.4	△6.0	△18.6	△18.8	△6.8	△20.5
売 上	△25.2	△27.5	5.1	0.0	△12.8	△19.5	△10.7	0.0	△20.5
収 益	△19.1	△26.7	5.1	0.9	△12.0	△22.9	△13.4	△8.5	△25.6
資金繰り	△18.3	△15.8	△5.9	△4.4	△19.7	△18.6	△17.0	△16.2	△19.7
料金価格	4.3	2.5	6.8	4.4	1.7	△2.5	△0.9	△3.4	△6.0
設 備	△8.7	△8.3	△12.7	△5.3	△6.0	△6.8	△8.0	△8.5	△10.3

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	14.5 %	提携先を見つける	23.9 %
同業者間の競争の激化	14.2 %	経費を節減する	16.2 %
売上の停滞・減少	12.5 %	販路を広げる	15.1 %

建設業



【概 況】

住宅建設が底堅く推移しており、関連である瓦工事・電気工事業や配管工事業も好調に推移しているが、土木工事業や左官業においては工事の減少から悪化したとする企業も一部で見られた。

結果、今期（H28.7～9月）業況D. Iは△5.9（前期△11.6）と5.7ポイント改善を示した。

来期（H28.10～12月）においては、住宅建設で若干の減少を予想しておりそれに伴い、関連業種の瓦工事等においても悪化を予想している。

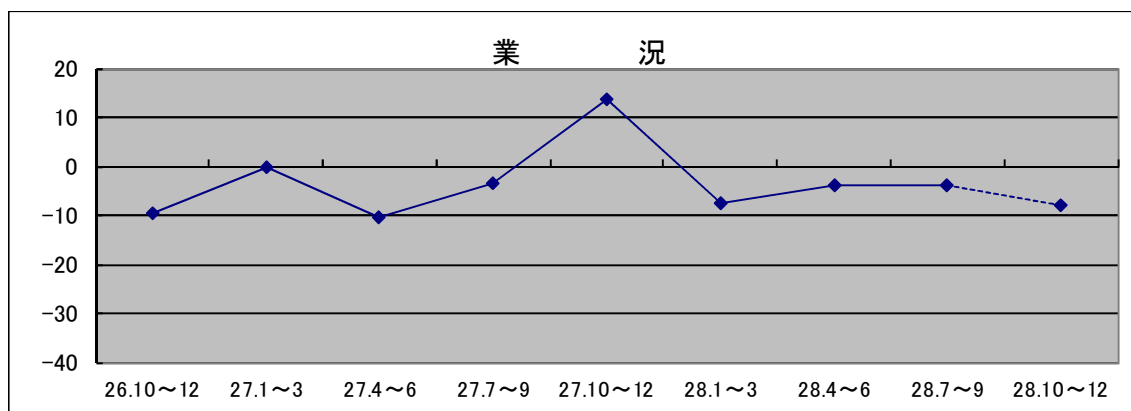
結果、業況D. Iは△12.7と今期（H28.7～9）より6.8ポイントの悪化を予想している。

《業績判断D. Iの推移》

	平成26年	平成27年				平成28年			見通し
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
業 況	4.0	3.9	△8.9	△4.0	0.0	△19.8	△11.6	△5.9	△12.7
売 上	6.0	△5.8	△12.9	△7.0	3.9	△18.8	△3.2	2.0	△5.9
収 益	△8.0	△8.7	△9.9	△15.0	0.0	△20.8	△6.3	1.0	△10.8
資金繰り	△10.0	△9.7	△8.9	△9.0	△9.8	△15.8	△7.4	△5.9	△6.9
請負価格	0.0	△12.6	△6.9	△5.0	△9.8	△14.9	△6.3	△2.9	△5.9
人 手	△19.0	△19.4	△4.0	△13.0	△12.7	△3.0	△5.3	△8.8	△7.8

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	23.7 %	技術力を高める	28.6 %
売上の停滞・減少	14.5 %	経費を節減する	18.1 %
人件費以外の経費の増加	13.7 %	販路を広げる	15.2 %

不動産業



【概 況】

経営上の問題点として前回調査に引き続き、「同業者間の競争の激化」を挙げた企業が多く、業況D. Iについては変わらぬとした回答が多かった。また事業先によっては今期・来期ともに厳しい見方をする企業もあり、結果として今期（H28.7～9月）業況D. Iは△4.0（前期△3.8）とほぼ横這いを示した。

来期（H28.10～12月）も引き続き厳しい予想する企業が多く、改善を見込む企業が少なかった。業況D. Iは△8.0と4.0ポイントの悪化を予想している。

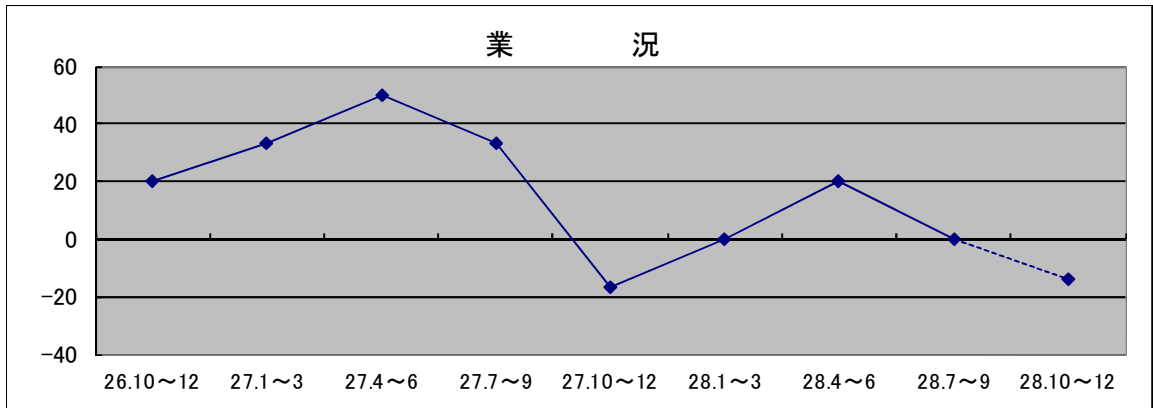
重点施策では「提携先を見つける」といった回答が一番多く、「経費を節減する」「販路を広げる」が次に続いた。

《業績判断D. Iの推移》

	平成26年	平成27年				平成28年			見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	△9.4	0.0	△10.3	△3.6	13.8	△7.4	△3.8	△4.0	△8.0
売 上	△9.4	9.1	△3.4	△3.6	0.0	0.0	3.8	0.0	△12.0
収 益	△9.4	12.1	△13.8	△10.7	△3.4	△3.7	0.0	△8.0	△12.0
資金繰り	0.0	△6.1	△17.2	0.0	△3.4	△18.5	△3.8	△8.0	△8.0
販売価格	△9.4	6.1	0.0	0.0	3.4	0.0	11.5	16.0	12.0
在 庫	△3.1	△6.1	△6.9	△10.7	0.0	△3.7	7.7	12.0	12.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	38.9 %	提携先を見つける	28.8 %
売上の停滞・減少	19.4 %	経費を節減する	21.3 %
大手企業との競争の激化	13.9 %	販路を広げる	16.3 %

能登地区の縫製業



【概 況】

受注は安定しているものの、人手不足が原因で前期に比べて売上が減少したことから、今期（H28.7～9月）業況D.Iは0.0（前期20.0）と悪化を示した。

来期（H28.10～12月）についても、引き続き人手不足が原因で売上の減少が続くと予想しており、D.Iを△14.3としている。

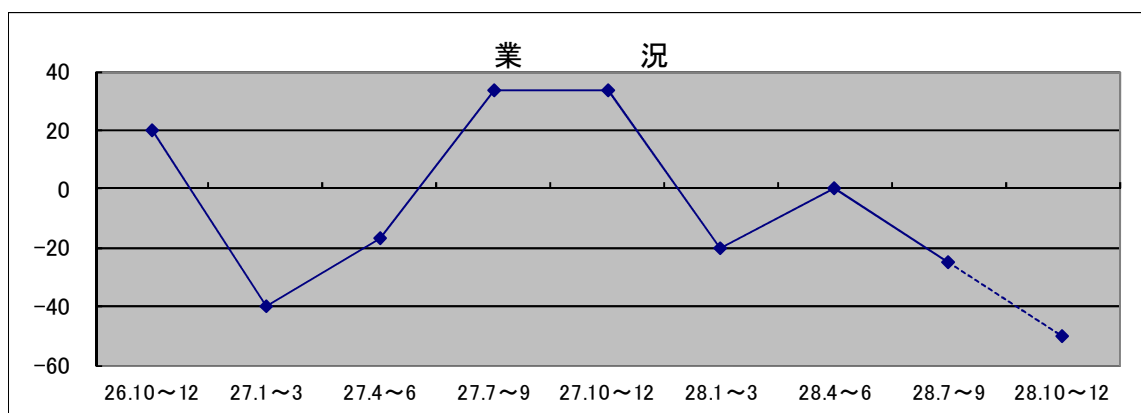
経営上の問題点として、「輸入製品との競争の激化」「売上の停滞・減少」、当面の重点施策に「人材を確保する」を上位に挙げている。

《業績判断D.Iの推移》

	平成26年	平成27年				平成28年				見通し
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	
業 況	20.0	33.3	50.0	33.3	△16.7	0.0	20.0	0.0	△14.3	
売 上	0.0	16.7	50.0	0.0	△33.3	16.7	0.0	△14.3	△14.3	
収 益	20.0	16.7	66.7	16.7	16.7	0.0	0.0	△14.3	△14.3	
資金繰り	0.0	16.7	0.0	△16.7	△16.7	△16.7	△40.0	△14.3	△14.3	
人 手	△20.0	△16.7	△33.3	△33.3	△33.3	△16.7	△20.0	△42.9	△42.9	
設 備	20.0	16.7	△16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
輸入製品との競争の激化	25.0 %	人材を確保する	22.2 %
売上の停滞・減少	20.0 %	提携先を見つける	16.7 %
人手不足	10.0 %	経費を節減する	11.1 %

能登地区の電子部品・半導体製造業



【概 況】

自動車部品の半導体及び電化製品部品の生産の減少から、業界全体の今期（H28. 7～9月）D. Iについて△25. 0（前期0. 0）と悪化を示した。

来期（H28. 10～12月）については、円高基調が引き続き予想される事や世界経済の減速による影響と不透明感から、全体の業況 D. I は今期より悪化するとして△50. 0を予想している。

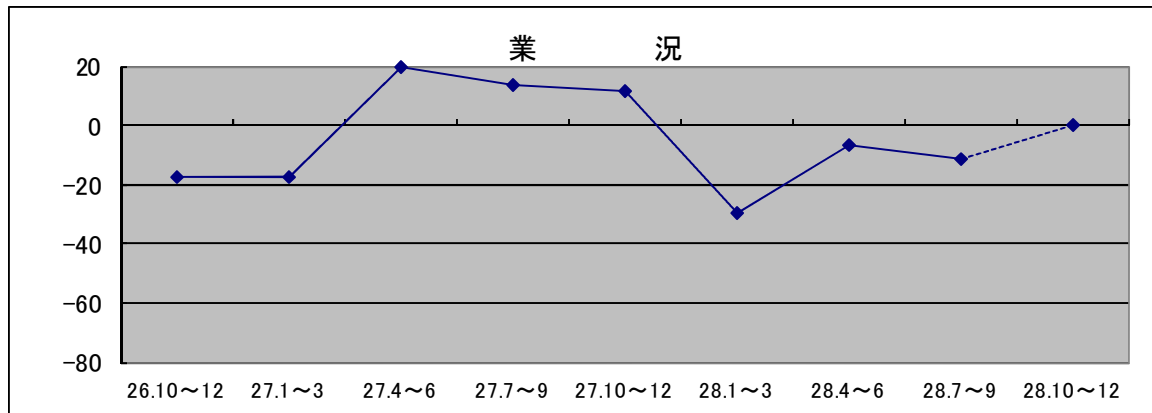
経営上の問題点としては「利幅の縮小」「販売納入先からの値下げ要請」等を挙げ、当面の重点施策には「経費を節減する」「提携先を見つける」を上位に挙げている。

《業績判断 D. I の推移》

	平成26年	平成27年				平成28年			見通し
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
業 況	20.0	△40.0	△16.7	33.3	33.3	△20.0	0.0	△25.0	△50.0
売 上	0.0	△60.0	△16.7	50.0	33.3	△20.0	20.0	0.0	0.0
収 益	0.0	△40.0	0.0	50.0	33.3	0.0	△20.0	25.0	0.0
資金繰り	△20.0	0.0	△16.7	0.0	33.3	20.0	△20.0	25.0	25.0
人 手	△20.0	20.0	0.0	△16.7	0.0	0.0	△20.0	50.0	25.0
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	△16.7	0.0	△20.0	△25.0	△25.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	16.7 %	経費を節減する	37.5 %
販売納入先からの値下げ要請	16.7 %	提携先を見つける	37.5 %
工場・機械の狭小・老朽化	16.7 %	販路を広げる	12.5 %

能登地区の漆器業



【概 況】

例年夏場は季節的要因から売上が減少傾向にある。今期（H28. 7～9月）業況 D. I も△11.1（前期△6.7）と4.4ポイント悪化を示した。

来期（H28. 10～12月）は、年末の書入れ時に向かい、売上増加を見込んでいる。従って、業況 D. I は0.0と改善を予想している。

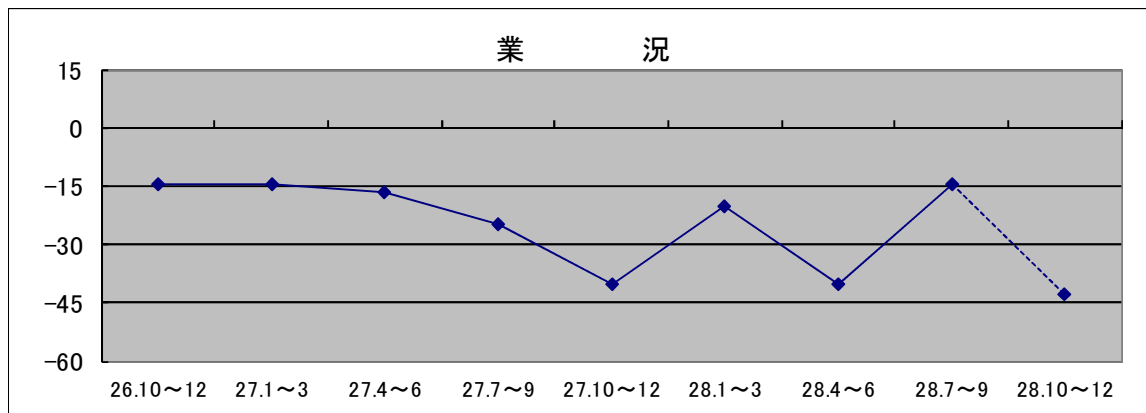
経営上の問題点として、「売上の停滞・減少」と「同業者間の競争の激化」を挙げ、当面の重点施策には「提携先を見つける」「販路を広げる」を上位に挙げている。

《業績判断 D. I の推移》

	平成26年	平成27年				平成28年				見通し
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	10～12月
業 況	△17.6	△17.6	20.0	13.3	11.8	△29.4	△6.7	△11.1		0.0
売 上	△5.9	△11.8	6.7	33.3	52.9	△5.9	6.7	△11.1		5.6
収 益	△5.9	△35.3	13.3	6.7	41.2	△5.9	13.3	△11.1		△5.6
資金繰り	△11.8	△17.6	0.0	△20.0	5.9	△5.9	△13.3	△11.1		△11.1
人 手	△23.5	△17.6	0.0	△20.0	△23.5	△11.8	△33.3	0.0		△5.6
設 備	△29.4	△23.5	△13.3	△20.0	△11.8	0.0	△20.0	△16.7		△16.7

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	17.6 %	提携先を見つける	27.3 %
同業者間の競争の激化	13.7 %	販路を広げる	23.6 %
地場産業の衰退	13.7 %	経費を節減する	14.5 %

能登地区の木材業



【概 況】

住宅建設が底堅く推移しており、地元産木材について需要がみられ、売上が増加となった。

従って、今期（H28. 7～9月）業況 D. I は△14. 3（前期△40. 0）と25. 7ポイント改善を示した。

来期（H28. 10～12月）については冬季に向かい、住宅建設が減少すると予想している。従って業況 D. I を△42. 9と28. 6ポイント悪化を予想している。

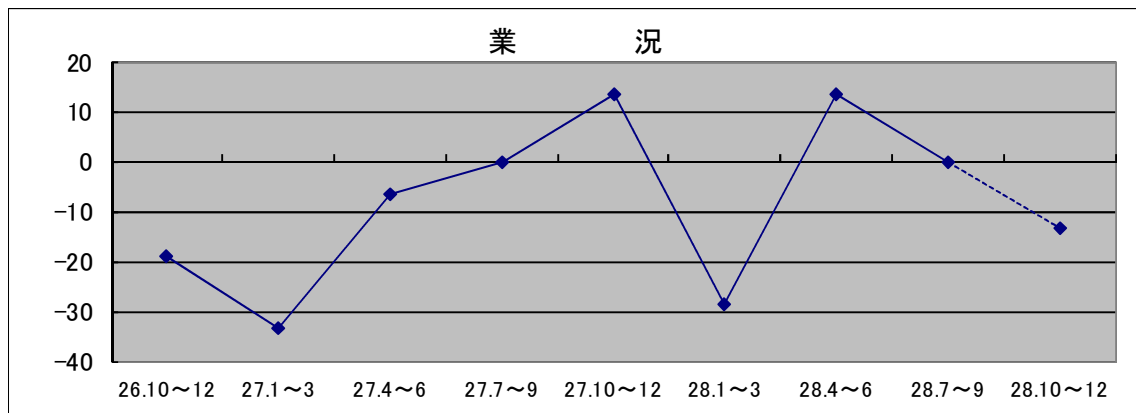
経営上の問題点として「売上の停滞・減少」、「輸入製品との競争の激化」、当面の重点施策に「情報力を強化する」を挙げている。

《業績判断 D. I の推移》

	平成26年	平成27年				平成28年			見通し
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
業 況	△14. 3	△14. 3	△16. 7	△25. 0	△40. 0	△20. 0	△40. 0	△14. 3	△42. 9
売 上	△14. 3	0. 0	△16. 7	△25. 0	△40. 0	△20. 0	△40. 0	△14. 3	△28. 6
収 益	0. 0	△14. 3	△16. 7	△25. 0	△20. 0	△20. 0	△40. 0	△28. 6	△28. 6
資金繰り	△28. 6	0. 0	△16. 7	△25. 0	0. 0	0. 0	△20. 0	△14. 3	△14. 3
人 手	0. 0	0. 0	△16. 7	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
設 備	△14. 3	0. 0	△16. 7	△25. 0	△20. 0	△20. 0	△20. 0	△14. 3	△14. 3

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	18.8 %	情報力を強化する	21.4 %
輸入製品との競争の激化	18.8 %	経費を節減する	14.3 %
原材料高	18.8 %	提携先を見つける	14.3 %

能登地区の建具業



【概 況】

殆どの事業所で業況が変わらないとした先が多かったものの、一部事業所で悪化とした先があり、従って今期（H 2 8． 7～9月）業況 D. Iは0． 0（前期1 3． 3）と悪化を示した。

来期（H 2 8． 1 0～1 2月）の見通しは、住宅の完成の減少から受注の悪化を見込み、D. Iを△1 3． 3と1 3． 3ポイントの悪化を予想している。

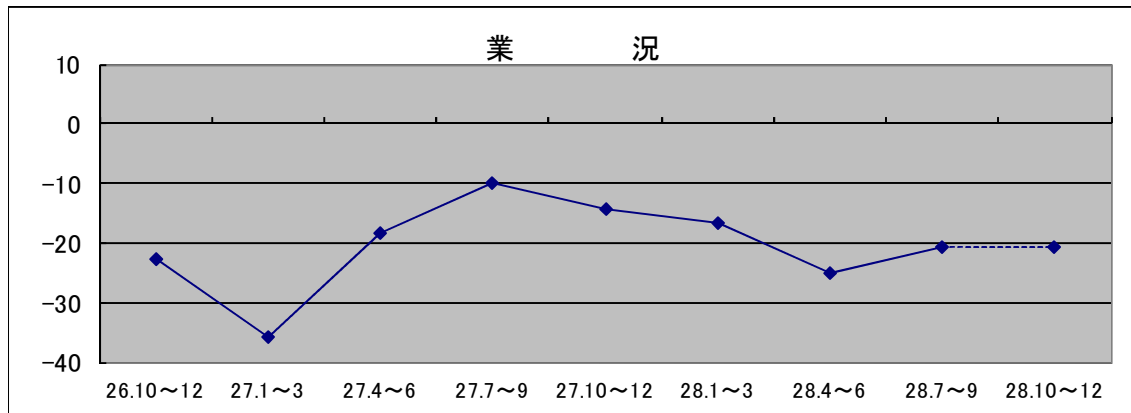
経営上の問題点として「売上の停滞・減少」「輸入製品との競争の激化」を挙げ、当面の重点施策は、受注の減少から「提携先を見つける」とした先が多かった。

《業績判断 D. I の推移》

	平成 26 年	平成 27 年				平成 28 年			見通し
	10～12 月	1～3 月	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月	4～6 月	7～9 月	10～12 月
業 況	△18.8	△33.3	△6.7	0.0	13.3	△28.6	13.3	0.0	△13.3
売 上	6.2	△53.3	△6.7	6.7	46.7	△64.3	20.0	6.7	△53.3
収 益	△25.0	△53.3	△13.3	0.0	6.7	△28.6	6.7	0.0	△20.0
資金繰り	△12.5	△33.3	△20.0	0.0	△13.3	0.0	△6.7	△6.7	△20.0
人 手	△37.5	△20.0	△13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
設 備	△12.5	△13.3	△13.3	△6.7	△6.7	△7.1	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	30.4 %	提携先を見つける	43.6 %
輸入製品との競争の激化	28.3 %	販路を広げる	25.6 %
地場産業の衰退	17.4 %	経費を節減する	20.5 %

能登地区の織布業



【概 況】

受注量は安定しているが、工賃単価が低いことから収益確保に至っては至っていない。今期（H28. 7～9月）業況 D. Iにおいては△20. 8（前期△25. 0）と4. 2ポイントの改善を示した。

今後の見通しについては、安定した受注による売上増加を見込む企業が多いが、為替相場の変動によっては先行きが不透明であり、工賃単価についても低い状態が続くとみている。

来期（H28. 10～12月）D. Iについては、今期と同じ△20. 8の横這いを予想している。

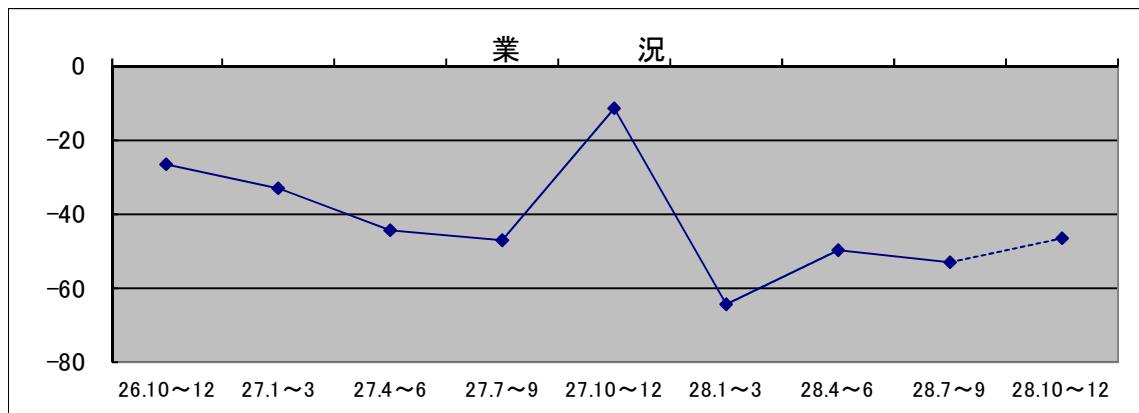
経営上の問題点は「売上の停滞・減少」等を挙げ、当面の重点施策では、「提携先を見つける」「経費を節減する」とした先が多かった。

《業績判断 D. I の推移》

	平成26年	平成27年				平成28年				見通し
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	
業 況	△22. 7	△35. 7	△18. 5	△10. 0	△14. 3	△16. 7	△25. 0	△20. 8	△20. 8	
売 上	0. 0	△28. 6	△22. 2	3. 3	△3. 6	△20. 8	△12. 5	△16. 7	△16. 7	
収 益	0. 0	△35. 7	△14. 8	0. 0	△3. 6	△16. 7	△20. 8	△25. 0	△20. 8	
資金繰り	△18. 2	△25. 0	△44. 4	△26. 7	△17. 9	△16. 7	△8. 3	△8. 3	△16. 7	
人 手	△18. 2	△17. 9	△14. 8	△16. 7	△17. 9	△20. 8	△12. 5	△16. 7	△16. 7	
設 備	△9. 1	△7. 1	△14. 8	△10. 0	0. 0	△12. 5	0. 0	4. 2	0. 0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	13.1 %	提携先を見つける	28.8 %
輸入製品との競争の激化	13.1 %	経費を節減する	19.2 %
工場・機械の狭小・老朽化	13.1 %	販路を広げる	17.3 %

能登地区の繊維・雑品業



【概 況】

昨今の円高の影響で、全般的に受注量は減少傾向にある。機械稼働率が60～70%という企業が少なく、例年以上に経営に苦慮している。結果、今期業況 D. I は△53.3（前期△50.0）と3.3ポイントの悪化を示した。

来期（H28.10～12月）は春物と夏物の受注が例年増加することから期待を寄せ、業況 D. I を6.6ポイント改善の△46.7と予想している。

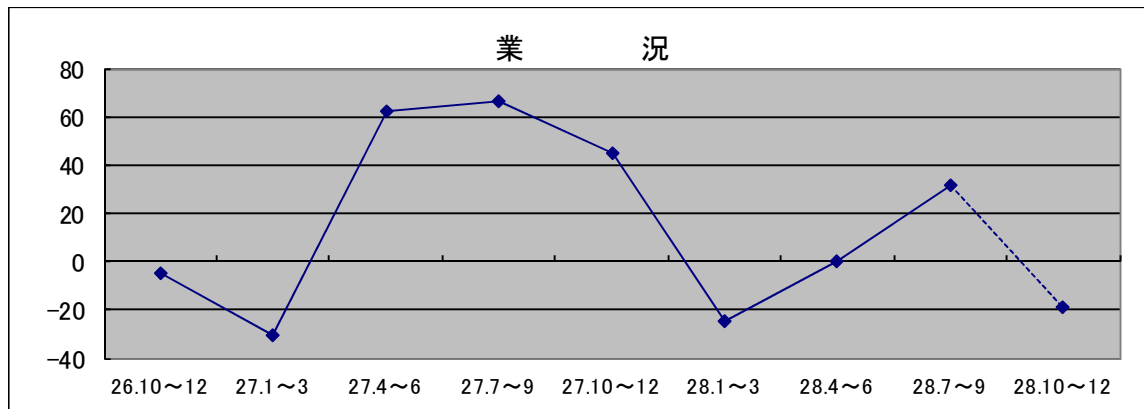
経営上の問題点として「売上の停滞・減少」「輸入製品との競争の激化」、当面の重点施策として「販路を広げる」「提携先を見つける」を挙げている。

《業績判断 D. I の推移》

	平成26年	平成27年				平成28年			見通し
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
業 況	△26.7	△33.3	△44.4	△47.1	△11.8	△64.7	△50.0	△53.3	△46.7
売 上	20.0	△26.7	△33.3	△5.9	11.8	△58.8	△22.2	△53.3	△26.7
収 益	△33.3	△20.0	△33.3	△5.9	0.0	△41.2	△16.7	△53.3	△26.7
資金繰り	△20.0	△13.3	△38.9	△29.4	△11.8	△47.1	0.0	△26.7	△26.7
人 手	△20.0	0.0	0.0	△5.9	△17.6	5.9	△5.6	0.0	△6.7
設 備	0.0	0.0	5.6	△5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	6.7

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	25.0 %	販路を広げる	23.9 %
輸入製品との競争の激化	20.5 %	提携先を見つける	23.9 %
原材料高	13.6 %	経費を節減する	15.2 %

能登地区の観光業



【概 況】

今期（H 2 8． 7 ～ 9 月）は夏休みや観光シーズンに入ったこともあり、業況 D. I は 3 1． 2 （前期 0． 0）と 3 1． 2 ポイント改善した。

来期（H 2 8． 1 0 ～ 1 2 月）は観光シーズンもオフになることから客足の減少が避けられない時期となる。従って悪化を見込む業者が多く、業況 D. I を△ 1 8． 8 とした。

経営上の問題点として「店舗・設備の狭小・老朽化」、「利幅の減少」、当面の重点施策として「提携先を見つける」、「販路を広げる」を上位に挙げている。

《業績判断 D. I の推移》

	平成 26 年	平成 27 年				平成 28 年				見通し
	10～12 月	1～3 月	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月	4～6 月	7～9 月	10～12 月	
業 況	△4.8	△30.4	61.9	66.7	45.0	△25.0	0.0	31.2	△18.8	
売 上	△33.3	△34.8	42.9	66.7	△5.0	△35.0	17.6	68.8	△50.0	
収 益	△28.6	△26.1	42.9	61.1	△5.0	△45.0	11.8	50.0	△56.2	
資金繰り	9.5	△13.0	23.8	16.7	△10.0	△5.0	0.0	6.2	△18.8	
料金価格	4.8	△4.3	23.8	16.7	5.0	0.0	5.9	0.0	△6.2	
設 備	△14.3	△8.7	△19.0	△5.6	△20.0	△15.0	△17.6	△25.0	△25.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
店舗・設備の狭小・老朽化	19.1 %	提携先を見つける	18.4 %
人手不足	10.6 %	販路を広げる	15.8 %
利幅の縮小	10.6 %	経費を節減する	15.8 %

主要経済指標

◆ 労働

(時間)

	有効求人倍率 (季節調整済)	実質労働時間	
			うち所定外
26年 10月	1.39	152.1	10.3
26年 11月	1.44	149.6	10.5
26年 12月	1.50	148.8	11.5
27年 1月	1.52	142.3	10.5
27年 2月	1.51	151.1	10.6
27年 3月	1.54	153.4	10.8
27年 4月	1.47	158.7	10.9
27年 5月	1.48	145.5	10.1
27年 6月	1.43	156.3	10.4
27年 7月	1.47	155.4	9.9
27年 8月	1.48	149.0	9.9
27年 9月	1.47	149.4	10.5
27年 10月	1.47	150.6	11.1
27年 11月	1.48	151.8	11.0
27年 12月	1.48	149.3	11.3
28年 1月	1.49	142.0	11.0
28年 2月	1.49	148.3	10.8
28年 3月	1.53	152.2	11.0
28年 4月	1.60	156.0	10.9
28年 5月	1.64	143.4	10.3
28年 6月	1.67	155.4	10.5
28年 7月	1.65	154.4	11.2

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 消費者物価指数

(平成12年を100とする)

	(平成12年を100とする)	
	総合	前年同月比
26年 10月	102.4	3.2
26年 11月	102.2	3.0
26年 12月	102.0	2.7
27年 1月	101.8	2.7
27年 2月	101.2	2.3
27年 3月	101.8	2.6
27年 4月	102.3	0.8
27年 5月	102.6	0.5
27年 6月	102.5	0.4
27年 7月	102.4	0.4
27年 8月	102.6	0.2
27年 9月	102.6	0.1
27年 10月	102.4	0.0
27年 11月	102.1	-0.1
27年 12月	102.0	0.0
28年 1月	101.4	-0.4
28年 2月	101.1	-0.1
28年 3月	101.7	-0.1
28年 4月	101.9	-0.4
28年 5月	102.0	-0.6
28年 6月	101.9	-0.6
28年 7月	99.6	-2.8
28年 8月	99.6	-3.0

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 信用保証

(百万円)

	保証承諾		保証債務	
	件数	金額	件数	金額
26年 10月	384	3,861	36,937	321,861
26年 11月	307	3,445	36,658	316,615
26年 12月	406	4,794	36,274	311,440
27年 1月	295	3,029	36,063	306,627
27年 2月	312	3,184	35,852	302,306
27年 3月	464	5,641	35,412	297,159
27年 4月	274	2,752	34,977	291,009
27年 5月	242	2,510	34,440	284,237
27年 6月	301	3,566	33,622	274,354
27年 7月	341	3,720	32,797	264,992
27年 8月	257	3,014	32,042	256,570
27年 9月	266	2,655	31,280	248,105
27年 10月	237	2,020	30,703	240,651
27年 11月	233	2,883	30,189	234,004
27年 12月	288	2,960	29,635	228,541
28年 1月	170	1,710	29,214	223,109
28年 2月	209	2,487	28,703	217,633
28年 3月	323	3,716	27,917	211,772
28年 4月	282	2,521	27,448	207,068
28年 5月	250	2,640	27,079	202,756
28年 6月	256	2,501	26,598	198,544
28年 7月	230	2,527	25,996	193,256
28年 8月	202	2,244	25,491	188,820

資料: 石川県信用保証協会「保証月報」

◆ 企業倒産件数

(百万円)

	件数	金額
26年 10月	8	973
26年 11月	10	1,031
26年 12月	6	380
27年 1月	7	323
27年 2月	5	288
27年 3月	7	580
27年 4月	9	2,213
27年 5月	7	446
27年 6月	5	257
27年 7月	6	2,629
27年 8月	5	387
27年 9月	4	219
27年 10月	5	182
27年 11月	6	362
27年 12月	7	860
28年 1月	7	615
28年 2月	8	690
28年 3月	10	6,265
28年 4月	14	1,386
28年 5月	7	295
28年 6月	7	191
28年 7月	4	123
28年 8月	6	1,394
28年 9月	8	163

資料: (株)東京商エリサーチ(石川県内)

主要経済指標

◆ 建築着工

(千㎡、百万円)

	建築着工総数		うち住宅着工	
	床面積	工事予定額	戸数(戸)	床面積
26年 10月	130	23,719	676	60
26年 11月	136	22,691	635	57
26年 12月	98	14,590	485	45
27年 1月	84	15,592	405	41
27年 2月	160	32,244	589	63
27年 3月	81	13,968	568	61
27年 4月	103	17,366	605	66
27年 5月	245	90,534	486	52
27年 6月	120	22,622	704	69
27年 7月	118	19,423	509	56
27年 8月	105	19,462	600	58
27年 9月	115	18,536	714	72
27年 10月	140	27,084	689	64
27年 11月	149	33,454	772	72
27年 12月	119	19,782	645	60
28年 1月	142	26,145	435	40
28年 2月	97	19,478	403	47
28年 3月	99	17,956	521	54
28年 4月	127	28,392	733	72
28年 5月	92	18,391	461	50
28年 6月	139	26,797	863	82
28年 7月	116	24,556	838	77
28年 8月	117	21,307	579	57

資料:国土交通省(石川県内)

◆ 公共工事請負金額

(件、百万円)

	件数	請負金額
26年 10月	541	12,590
26年 11月	383	7,584
26年 12月	363	6,925
27年 1月	266	5,824
27年 2月	187	5,538
27年 3月	171	8,315
27年 4月	272	23,484
27年 5月	255	7,630
27年 6月	482	12,843
27年 7月	492	13,986
27年 8月	456	11,679
27年 9月	508	13,493
27年 10月	518	10,839
27年 11月	333	11,062
27年 12月	315	7,244
28年 1月	225	6,449
28年 2月	182	3,119
28年 3月	235	12,468
28年 4月	338	34,735
28年 5月	275	15,943
28年 6月	513	19,460
28年 7月	508	12,376
28年 8月	500	13,461
28年 9月	499	10,879

資料:東日本建設業保証㈱(石川県内)

◆ 新車登録台数

(台)

	普通自動車	軽自動車
26年 10月	2,778	1,467
26年 11月	2,571	1,798
26年 12月	2,364	1,596
27年 1月	2,400	1,448
27年 2月	3,536	2,083
27年 3月	5,825	3,838
27年 4月	2,159	1,232
27年 5月	2,289	1,223
27年 6月	3,104	1,705
27年 7月	3,088	1,533
27年 8月	2,209	1,136
27年 9月	3,362	1,779
27年 10月	2,613	1,450
27年 11月	2,648	1,371
27年 12月	2,399	1,288
28年 1月	2,343	1,356
28年 2月	3,223	1,932
28年 3月	5,620	3,009
28年 4月	2,269	1,218
28年 5月	2,485	1,131
28年 6月	3,131	1,498
28年 7月	3,035	1,357
28年 8月	2,373	1,186
28年 9月	3,367	1,679

資料:石川県自動車販売店協会

◆ 温泉地宿泊数

(人)

	和倉温泉	輪島温泉
26年 10月	70,543	17,100
26年 11月	84,881	17,300
26年 12月	67,063	11,300
27年 1月	49,135	6,800
27年 2月	61,544	8,600
27年 3月	73,792	13,100
27年 4月	61,731	13,900
27年 5月	81,717	22,000
27年 6月	81,156	20,000
27年 7月	74,417	20,600
27年 8月	102,173	25,600
27年 9月	81,742	21,400
27年 10月	95,307	24,000
27年 11月	95,667	21,700
27年 12月	78,739	12,600
28年 1月	61,697	8,100
28年 2月	69,634	10,700
28年 3月	76,739	14,900
28年 4月	61,659	14,100
28年 5月	76,506	20,900
28年 6月	71,019	14,300
28年 7月	67,715	13,100
28年 8月	97,797	22,600

資料:北陸観光協会、和倉温泉観光協会
輪島市観光協会

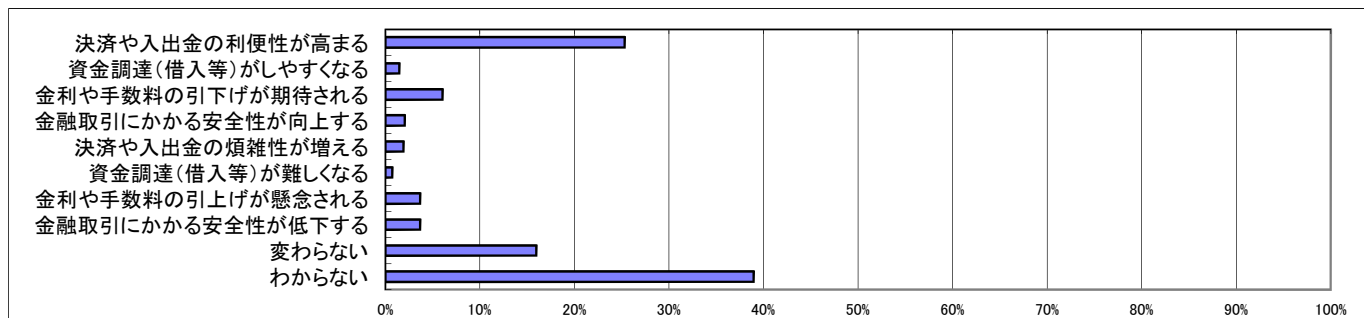
◆ 織物生産高

(千㎡)

	合計
26年 10月	23,575
26年 11月	22,874
26年 12月	22,397
27年 1月	21,881
27年 2月	22,872
27年 3月	25,113
27年 4月	24,452
27年 5月	23,515
27年 6月	25,070
27年 7月	25,084
27年 8月	20,007
27年 9月	24,048
27年 10月	23,285
27年 11月	22,433
27年 12月	22,257
28年 1月	21,336
28年 2月	22,811
28年 3月	24,980
28年 4月	23,956
28年 5月	22,187
28年 6月	23,997
28年 7月	23,584

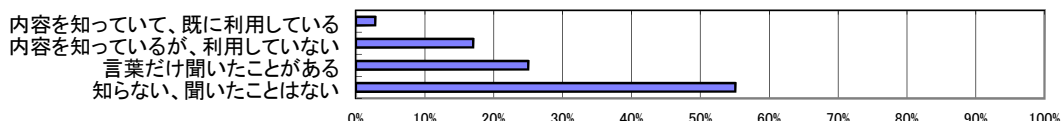
資料:石川県企画開発

問1. 貴社では、現状の金融機関取引がIT化していくことで、どのような変化が起これと考えていますか。

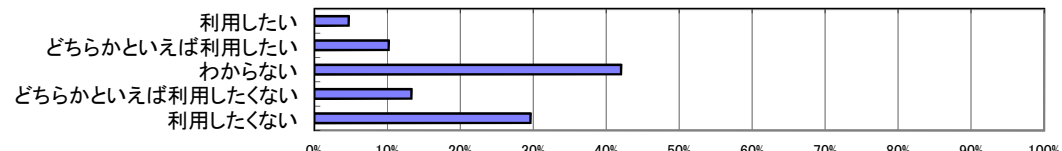


問2. 最近、IT化の進展にともない、ITを活用した金融サービスを提供する金融機関が出始めていますが、貴社では、問3・問4の回答項目に挙げるような金融サービスを提供する「金融とITの融合(フィンテック)」をご存知でしたか。また、こうしたITを活用した金融サービスを貴社の事業上で利用したいとお考えですか。

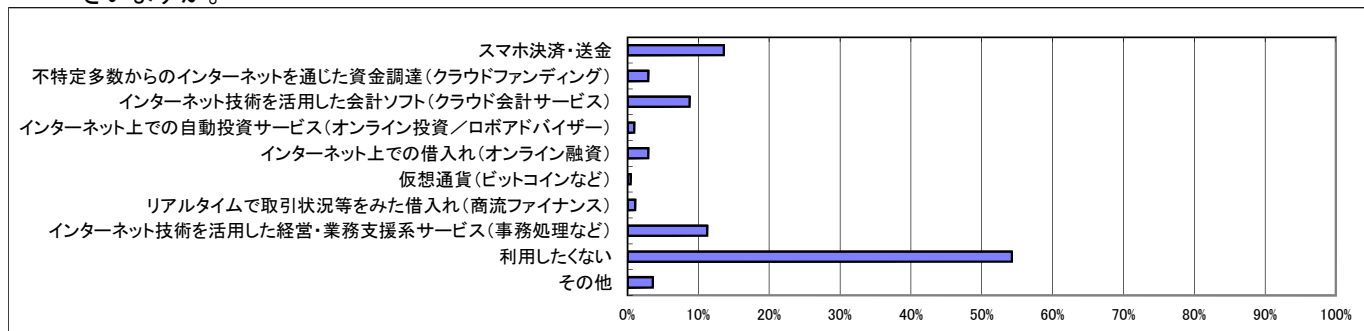
《金融とITの融合(フィンテック)の認知度》



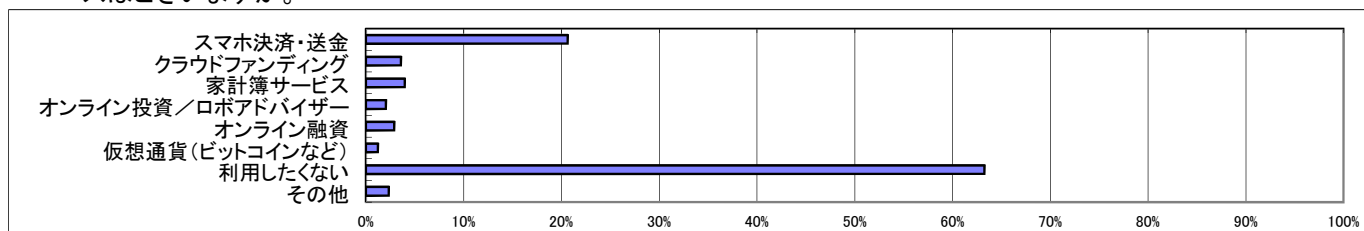
《金融ITサービスの利用意向》



問3. 貴社が組織(事業)としてITを活用した金融サービスを利用している(あるいは利用したいと考えている)サービスはございますか。

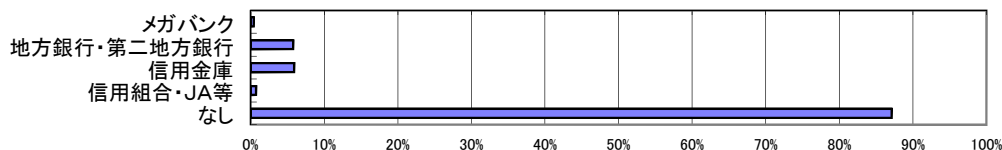


問4. 社長ならびに家族が個人としてITを活用した金融サービスを利用している(あるいは利用したいと考えている)サービスはございますか。

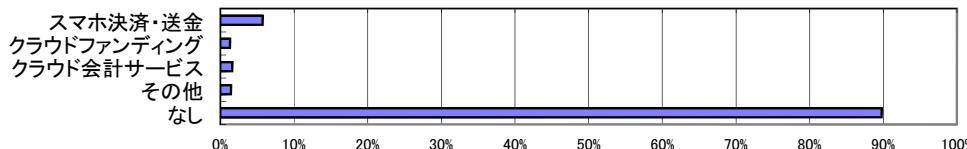


問5. 取引金融機関から貴社に対して、事業上でITを活用した金融サービスの利用を勧奨されたことがありますか。下記のなかから、特に強く提案してきた取引金融機関および特に強く勧奨されたサービスをお答えください。

《提案してきた取引金融機関》



《取引金融機関から提案されたサービス》



地区内の業況D. I 推移

年	期間	業況D. I	年	期間	業況D. I
H21年	1～3月	△ 40.8	H25年	1～3月	△ 30.9
	4～6月	△ 29.4		4～6月	△ 20.0
	7～9月	△ 25.0		7～9月	△ 18.6
	10～12月	△ 34.5		10～12月	△ 14.4
H22年	1～3月	△ 42.8	H26年	1～3月	△ 21.9
	4～6月	△ 36.8		4～6月	△ 25.7
	7～9月	△ 35.3		7～9月	△ 23.4
	10～12月	△ 42.1		10～12月	△ 20.3
H23年	1～3月	△ 42.0	H27年	1～3月	△ 21.6
	4～6月	△ 34.3		4～6月	△ 13.3
	7～9月	△ 33.3		7～9月	△ 11.6
	10～12月	△ 31.6		10～12月	△ 10.4
H24年	1～3月	△ 39.1	H28年	1～3月	△ 23.2
	4～6月	△ 34.2		4～6月	△ 17.9
	7～9月	△ 29.6		7～9月	△ 12.1
	10～12月	△ 28.2		10～12月	

